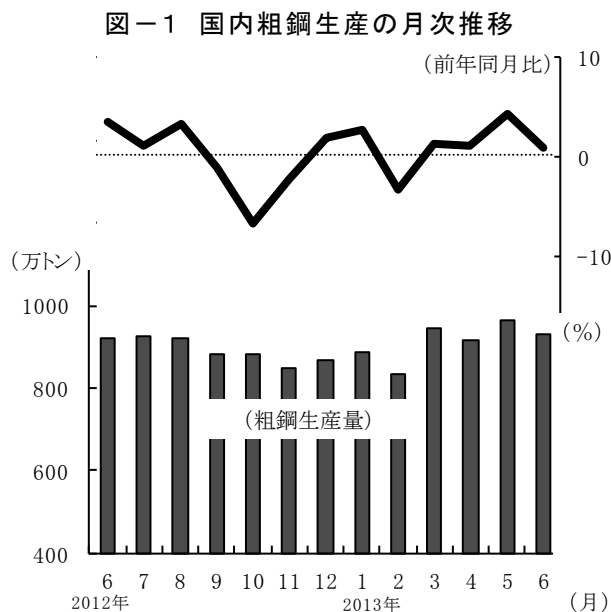




(6,190万トン)に対して88%の水準だが、リーマン・ショック後では最も高いレベルとなっている。上期の炉別内訳でみると、転炉鋼が前年同期比3.2%増の4,222万トンになったのに対して電炉鋼は同5%減の1,249万トンにとどまった。鋼種別にみると、普通鋼が同3.4%増の4,276万3,000トン、特殊鋼が同6%減の1,194万8,000トンとなった。

財務省が発表した6月の鉄鋼貿易統計によると、輸出(全鉄鋼ベース)は前年同月比2.3%増の366万2,000トンとなり、2カ月ぶりに前年同月実績を上回った。海外市況の軟化で高炉大手はアジア向け汎用ホットコイルの輸出成約を抑えたが、中東、アフリカなどで販路が広がっていることで落ち込みが少なく、依然月間300万トン台後半の輸出量が続けている。一方、6月の全鉄鋼輸入は前年同月比11.4%減の54万8,000トンと6カ月連続で減少した。6月の地域別輸出は、ASEAN向けが110万6,000トン(同1.9%減)となり、14カ月ぶりの前年割れとなった。アジアNIE's向けは114万9,000トン(同0.2%減)で2カ月連続の減少、中国向けは48万7,000トン(同1.1%減)、米国向けは17万3,000トン(同22.0%減)で2カ月連続の前年割れだった。中東向けは18万3,000トン(同52.5%増)でラマダンによる駆け込み需要から増加した。6月の主要地域別輸入は、アジアNIE'sから30万9,000トン(同15.2%減)、中国からは9万1,000トン(同13.6%増)だった。

2013暦年上期(1~6月)の全鉄鋼輸出は前年同期比7.8%増の2,218万9,000トンとなり、暦年上期の最高記録を更新した。向け先別にはASEANが同19.1%増の705万6,000トン、アジアNIE'sは同4.1%増の674万2,000トンで、ASEANが最大向け先に浮上した。中国は同2.4%減の296万5,000トンとなった。上期の全鉄鋼輸入は、前年同期比11.1%減の335万3,000トンにとどまった。主な相手輸入国・地域は、アジアが同11.6%減の274万7,000トンで、このうち中国が16.7%減の49万1,000トン、NIE'sが10.8%減の209万2,000トンとなった。



#### ◆7~9月期粗鋼生産見通し、2,802万トン

経済産業省が7月初めに策定した2013年度第2四半期(7~9月期)の見通しによると、出荷相当の粗鋼需要量は前期見込み比0.3%減の2,802万トンと三四半期ぶりに減少するが、第1四半期(2,810万トン)に続いて2期連続で2,800万トンを維持する見通しとなる。前年同期比では2.8%増となる。公共事業の発注増や民間設備投資の回復傾向を受けて建築・

土木向けの国内需要が堅調に推移するほか、円高修正の流れを受けて輸出も高水準を維持する。鋼材需要は国内が前期比 3.1%増、前年同期比 0.5%増の 1,569 万トン、輸出がそれぞれ 0.5%増、3.1%増の 875 万トンを見込み、合計では 2.1%増、1.3%増の 2,444 万トンとしている。

第 2 四半期における普通鋼鋼材の国内需要は、1,244 万トン（前期比 3.1%増）と 3 期ぶりに増加すると見込んでいる。工事発注の最盛期を迎える公共土木需要は前期比 14.9%増（前年同期比 11.7%増）、民間土木需要は期ずれの影響で同 10.1%減（同 1.2%減）、消費税前の駆け込みなどで住宅需要は同 5.9%増（同 7.2%増）、堅調な物流倉庫などで非住宅建築も同 2.3%増（同 6.3%増）を見込む。製造業向けでは、造船の受注改善で鋼材需要減のペースは落ちるものの、減少が続く。自動車は国内販売が季節要因で増えるが、前年のエコカー補助金の反動が出る。特殊鋼鋼材の国内需要は、自動車・建築機械向けの部品生産が伸びるため前年度比 3.3%増の 497 万トン（前年同期比 0.6%減）と見込んでいる。

普通鋼鋼材の輸出はほぼ前期並み（0.4%増）ながら、円高の影響が大きかった前年同期比（2.6%増）では増える。

#### ◆新日鉄住金とトヨタ、1 万円値上げで合意

新日鉄住金とトヨタ自動車は、2013 年度上期（4～9 月）の自動車用鋼板の紐付き価格交渉を進めていたが、2012 年度下期に比してトン当たり 1 万円値上げすることで合意した。値上げは 2 年ぶりとなる。円高修正で自動車会社の収益が好転する中、鉄鋼メーカーは為替影響による円建て原料コストの上昇幅が大きく、過去に原料価格が上がった際の積み残し分や、安定供給継続のための収益改善なども訴えてトン 1 万 5 千円程度の値上げを求めていた。一方、トヨタ側は鋼板価格の大幅上昇は百数十億円規模のコスト上昇になるため難色を示していた。しかし、新日鉄住金が中国での増産計画をはじめ、メキシコ、タイ、インドなどグローバルな自動車用鋼板の供給体制の整備を進めていることや、軽量化や燃費改善に向けた技術協力への努力を行なっていることなども評価し、トヨタ側も値上げを受け入れた。両社の交渉決着は、他の自動車メーカーと電機、自動車などの顧客との価格交渉に大きな影響をもたらすものと思われる。

#### ◆6 月世界粗鋼生産、1 億 3,165 万トン

世界鉄鋼協会が発表した 6 月の世界（64 カ国）粗鋼生産実績は、前年同月比 1.9%増の 1 億 3,165 万 2,000 トンと 9 カ月連続で前年同月実績を上回った。欧米が伸び悩む中で、中国が 6,466 万トンと 5 月に続き 6 千万トンを超える高い水準となった。64 カ国の粗鋼生産量は前月比では 3.2%減であったが、日産量では前期並みだった。中国の 6 月の日産量は前月比 0.3%減と減少したが、中国以外は 0.4%増と回復した。新興国の日産量では、韓国は 2.0%増と 2 カ月ぶりに伸び、インドは 0.1%増と 4 カ月ぶりに増えた一方、ブラジルは 2.9%減と 2 カ月連続で減った。

先進国では EU27 は 0.1%増と 3 カ月連続で伸び、北米は 1.3%増と 4 カ月ぶりに増え、日本は 0.4%減と 6 カ月ぶりに減った。2013 年上期（1～6 月）の累計は 7 億 8,980 万トンと前年同期比 2.0%増となったが、年率では初の 16 億トンには届かないペースとなっている。上期累計では中国（同 7.4%増）、インド（2.5%増）と前年同期を上回ったが、韓国は同 5.3%減、ブラジルは 2.2%減と後退した。先進国では EU27 は 5.1%減、北米は 5.8%減と減少した一方、日本は 1.2%増と上昇した。 □